

令和8年度 学校評価 重点目標

本年度の重点目標		【スローガン】 「自分がすき・みんながすき・学校がすき」 ① 安全で安心して学べる学校づくり 「危機管理体制の再構築と即応力の向上」 ② 働きやすい職場づくり 「校務の平準化による負担軽減」 ③ 個に応じた指導の充実 「子どもたちを中心に据えた授業改善」 ④ つながりのある教育活動の実践 「学校・家庭・地域とのあたたかな連携」	
項目 担当	重 点 目 標	具 体 的 方 策	留 意 事 項
総務	④校内掲示板や広報活動の充実	・学校だより等、見やすさを意識したレイアウトとする。マチコミやグループウェアを利用するなど、業務の効率化を図る。	・内容を精査し、必要な情報を掲載する。重複した内容にならないよう留意する。 ・マチコミ、グループウェアの活用の際は、必ず個人情報に留意し配信する。
教務	④つながりのある教育活動の実践	・小学部、中学部、高等部のつながりのある教育課程を目指し、児童生徒の実態を踏まえつつ検討を進める。また、教科・領域会を中心に3部間の指導内容の系統性や教科の横断性を盛り込んだ年間指導計画を作成・検討していく。	・全校的、あるいは部をわたる学校行事の連続性について、ねらいや学習内容の整理、検討を進める。
生徒指導	①防災訓練内容の見直し	・画一的な避難訓練だけでなく、危険を予測したり回避したりする能力を養うことができる訓練や情報提供を行う。	・防災計画について教職員等から幅広く意見を集約し、より実践的なものとなるようにする。 ・研修会などの情報を職員で周知し、それを基に児童生徒にも分かりやすい指導内容を検討する。
進路指導	③キャリア教育の充実と地域連携	・進路・キャリア教育に関わる情報発信を充実させ、校内、関係諸機関との連携を強化する。	・各部への最新情報の提供やキャリア教育の充実を図る。
保健体育	①安全な教育環境の構築	・緊急時対応のマニュアルや体制の検討を継続的に行う。 ・緊急時対応訓練の充実を図る。	・緊急時対応等で不都合な点が現れた場合に検討を行い、以降の対応に生かせるようにする。 ・緊急時対応訓練を充実させ、即応力を高められるようにする。
研修	③教職員の専門性と指導・支援力の向上	・現職研修を充実させる。 ・全校研究を充実させる。	・専門性と指導・支援力の向上を目指して、他の校務と連携したり外部専門家を招いたりすることで、指導・支援のヒントを得ることができるようにする。小学部・中学部・高等部のつながりを意識した授業ができることを目指す。

情報	②教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上	・教員用タブレットパソコンやＩＣＴ機器等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。 ・担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして、情報モラル教育を進めていく。	・セキュリティ意識をより高められよう、定期的に情報提供や注意喚起を行う。 ・情報部職員が自己研鑽に努め、トラブルやサポートへの対応力向上を図る。
教育支援	③センター的機能の向上	・地域の保護者や教員を対象に、たんぼぼ相談や巡回相談等の相談活動を行い、夏季研修会は本校教員だけでなく、広く地域の教育・福祉関係者等を対象に実施する。	・担当者間で事例検討を重ねたり情報や知識を共有したりして、各活動の内容を充実させる。 ・相談活動を通じて、地域の学校の支援に関するニーズを把握し、現場の実態を踏まえた助言や提案を行う。
自立活動	③学習指導支援の充実	・校内の教材・教具が有効に使われるよう、教材を分かりやすく整理し紹介する。貸出状況からニーズを把握し購入をすすめ、教材・教具の充実を図る。 ・教材・教具の出展をとおして、様々な教材を職員に紹介する。	・定期的に点検・補修を行い、授業等で有効活用できるようにする。 ・教材の活用方法や活用場面を併せて紹介することで、授業実践に役立てる。
小学部	③生活習慣や日常生活における基本的な力の育成	・二学年ごとの長期的な視点に立ち、授業の改善、指導・支援の充実を図る。	・教科・領域会や校内研究と関連付け、効果的な学習内容や指導方法について共通理解を図り、学習計画全体を見直す等、必要な改善を図る。
中学部	③生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり	・生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。	・生徒自身が扱いやすく、「またやってみよう」と思えるような題材設定や内容の工夫、教材・教具の開発に努める。
高等部	③自立と社会参加を実現する力の育成	・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、主体的に学び、課題を解決していく力を育成する。	・在籍生徒数の小規模化を受け、授業や行事の取組を工夫・変更し、規模に応じた手だてを定め目標達成を目指す。さらに生徒の学習意欲や興味・関心を高め、主体的に学ぶ力や課題を解決する力を育成するとともに、互いを認め合い、好ましい人間関係を構築できるようにする。
学校関係者評価を実施する主な項目		○新体制における防災・防犯体制の確立と即応力の向上 ○校務の平準化と協力体制の構築 ○子どもたちの学びを中心にした年間行事計画の見直し ○学校・家庭・地域とのあたたかな連携を通じた支援	